

令和 3 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団予算書
(抜粋)

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	11

事業計画書

令和3年度事業計画

昨年は、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当財団においても各種事業に様々な影響が出たところです。令和3年度は、いち早い終息と通常の生活が戻ることを願いながら、基本理念に基づき、将来を展望した業務運営に努めます。

文化財部門は、近年のいわき市関連の発掘調査が減少傾向にあることから、新たに市外の自治体における発掘調査等を受託し、業務量の確保を図ります。

施設部門は、現指定管理期間の中間期を迎えます。これまでの事業実績に対する評価・検証を適切に行い、市民ニーズを的確に捉えた事業計画案を策定し、事業の推進を図ります。また、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、市民が安心して利用できる施設運営を行います。

基本理念

本財団は、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、教育水準の向上及び文化の発展に寄与するために、人の営みや地域に根ざした歴史・文化を正しく継承、発信し、新たなまちづくりに活かしていくことを目指します。

今後とも、公益法人としての社会的責任を強く自覚し、行政や地域団体等との「連携・協働」の強化を図りながら、社会ニーズを捉えた管理運営を誠実に実行します。

基本方針

- ① 教育文化の振興とまちづくりへの貢献
 - ・地域の歴史や文化を知る機会をつくり、市民にとって魅力ある運営を行います。
 - ・蓄積してきた調査・研究成果を提供し、学校教育や社会教育などに貢献します。
- ② 市民に愛され親しまれる施設の確立
 - ・多様化・高度化する市民ニーズを捉え、市民が内外へ誇れる施設を目指します。
 - ・地域の歴史や伝統を体験・学習できる施設として、機能を十分に発揮します。
- ③ 時代の変化に対応できる運営体質の構築
 - ・施設の設置趣旨に沿った事業を実行するため、適切に専門職員を配置します。
 - ・幅広く柔軟な管理運営のために、研修を充実させ、人材の育成強化を図ります。

1 文化財部門(公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

(1) 基本方針

本年度の事業は、市内9件、市外の本宮市2件・石川町1件の3件を予定しています。

発掘調査は、試掘・確認調査を含め4件、整理等作業、報告書作成は、梅ノ作瓦窯跡群はじめ6件、うち4件についての報告書刊行を予定しています。

また、磐城平城関係で、継続する文献等調査の報告書刊行、新規で史跡磐城平城跡塗師櫓石垣の現状調査を予定しています。

事業実施に当たっては、発掘調査等における安全な作業環境の確保と事故の防止、事業の円滑な実施に努めるとともに、調査成果については公開・活用を図ります。

(2) 事業計画

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
1	市内遺跡発掘調査 (試掘・確認調査)	いわき市教育委員会 (文化振興課)	市内一円	試掘・確認調査 整理、報告書作成
2	市道改良工事 (南白土関根2号線)	いわき市 (土木課)	岡ノ内遺跡	発掘調査
3	市道改良工事 (千ヶ久保・松原線)	いわき市 (土木課)	新林遺跡	発掘調査
4	合併支援道路整備事業 (本宮三春線)	福島県県北建設事務所(本宮市)	大学館跡	発掘調査
5	市内遺跡発掘調査 (報告書作成)	いわき市教育委員会 (文化振興課)	磐出館跡	整理等 報告書作成
6	梅ノ作瓦窯跡群範囲確認調査	いわき市教育委員会 (文化振興課)	梅ノ作瓦窯跡群	整理等 報告書作成・刊行
7	埋蔵文化財発掘出土品等整理事業	いわき市教育委員会 (文化振興課)	小浜西ノ作遺跡 大畑K地点	整理 報告書作成・刊行
8	餓鬼堂地区埋蔵文化財発掘調査事業	いわき市 (林務課)	餓鬼堂横穴群	整理 報告書作成
9	合併支援道路整備事業 (本宮三春線)	福島県県北建設事務所(本宮市)	大学館跡	整理 報告書作成・刊行
10	埋蔵文化財出土遺物整理	石川町教育委員会	殿畑遺跡	整理
11	史跡磐城平城跡塗師櫓石垣整備	いわき市 (文化振興課)	史跡磐城平城跡塗師櫓	石垣の現状調査
12	磐城平城文献等調査業務	いわき市 (文化振興課)	平城跡	文献等の調査 調査報告書の刊行

2 施設部門(公2 教育文化施設の管理運営事業)

(1) 基本方針

各施設は、指定管理者の立場を踏まえ、自らの責任と判断によって、施設の設置目的や機能に基づいた適正な管理運営を行い、公共施設の持つ意義を考え、利用者への公平かつ平等なサービスの提供に努めます。また、利用者の意見を適宜把握しながら、質の高い事業を展開することによって、市民へのサービス向上を図ります。

さらに、利用者の安全確保を最優先に、施設設備の維持管理に当たっては常に細心の注意を払い、快適で利便性の高い施設環境を確保するため、市・県と連携しながら施設設備の効果的な維持・補修を計画します。

(2) 事業計画

ア いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、春、夏、秋の計3回の企画展を開催します。

春の企画展「草野心平のオノマトペ 生きてゆく擬音」では、心平の作品の中から、オノマトペを用いた詩篇を紹介し、その作品の魅力にあらためて気づききっかけとします。

夏の企画展「中原淳一展—美しく装うことの大切さ—(仮称)」では、中原が様々な視点で描いたスタイル画などを展覧し、その美意識にふれることで、新型コロナウイルス感染症の影響下での閉塞感から逃れ、日常へ向ける視点を刷新するきっかけを提供します。

秋の企画展「新収蔵品展(仮称)」では、平成23年度以降に収蔵した資料を中心に、草野心平の自筆原稿や戦前の掲載誌、草野心平研究者として知られる故・深澤忠孝氏の研究資料などを展覧します。

また、所蔵品展として、いわきゆかりの文学者を紹介するスポット展示を年4回、開催します。

さらに、文学関連をはじめとした多彩な事業を展開します。文芸講演会では、活躍中の方を講師に招いて講演会を開催し、文学散歩では、いわきゆかりの文学者についての理解を深めるきっかけを提供します。また、アートパフォーミング事業では、7、8月の土曜日の夜間開館時の演奏会など幅広い芸術活動にふれる機会を提供します。

生家では、「心平誕生月の記念朗読会」、「カエルのクラフトワークショップ」、「子どもじゃんがら」、没後34回忌「心平忌」、「草野天平の集い」などを開催します。

イ いわき市暮らしの伝承郷

企画展示は2回実施します。4～6月の「古民家模型展パート5—大内宿—」は、市内在住の菅野清八氏が制作した精巧な古民家模型48点により、福島県南会津郡下郷町大内宿の町並みを再現展示します。11月～1月の「いわき地方の道標展(仮)」では、いわき市内に残されている各種信仰に係る石塔などに刻み込まれた道標を取り上げ、かつての交通や旅の様子、さらにはその地区に残されている信仰などを紹介します。

常設展示は、既存の展示を基本に、資料の差し替えや追加、情報量を増加させるとともに、収蔵資料や年中行事の展示に加えて、時節に合ったトピック等を紹介するロビー展を継続実施し、来園者サービス向上に努めます。

古民家維持管理は、古民家を中心に畑や里山も含めた景観や昔の暮らしの復元・展示を通して、生活文化の保存・伝承を図るとともに、来園者に学びや癒やしの空間を提供します。

調査研究は、市内で行われている祭礼や年中行事、民具調査などを実施します。

講演会等は、福島県の民俗研究の礎を築いた研究者の調査研究から本県の民俗研究の生い立ちを探るものや、文化庁より記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として選択された「浜通りのお浜下り」についての講座を2回開催します。

資料整理等は、民具等の寄贈や企画展準備にあわせて効果的な整理を実施し、収蔵資料は適切な管理を心懸けます。

体験学習は、「けん玉道場」・「竹のコースター作り」・「正月飾り作り」・「伝承郷で見つける自由研究」などを実施し、昔遊びや伝統技術を体験・伝承する機会の提供や、園内の動植物の観察、篠笛やハーモニカの音色に触れる演奏会、民具・伝統などの調べ学習の支援などを行います。

年中行事は、近年見られなくなった「端午の節句飾り・菖蒲と蓬差し」・「蚊帳吊り」・「エビスコ」・「こと八日」・「餅花飾り」などを実施し、日本人が培ってきた祈りと生活の知恵を来園者に紹介します。なお、行事本来の季節感を感じてもらえるよう、一部の行事は旧暦に基づいて実施します。

ボランティア育成事業は、生涯学習活動の一環として積極的に推進します。団体来園時のガイドボランティアには、資質向上を図るため毎月1回の意見交換・勉強会等を実施します。園内民家ゾーンで野菜を栽培する花と野菜作りボランティアには、園内展示の趣旨に沿った栽培をするよう、適宜、指導と助言を行います。囲炉裏の火焚き、年中行事補助等を行う民家維持管理ボランティアは、活動の際に注意事項を確認し、事故・怪我のないよう努めます。

ウ いわき市勿来関文学歴史館

指定管理期間の4年次となります。企画展示は3回実施します。4月～7月に野口雨情といわきとの関わりを紹介する「野口雨情～童謡詩人といわき～」展、7月～9月に近年の発掘調査資料をもとに勿来の歴史を紹介する「ここまでわかった古代の勿来」展、11月～2月に漢学者大須賀筠軒の交友や時代について紹介する「大須賀筠軒とその時代」展を開催します。

講座や講演会は、それぞれの企画展に合わせて展示内容をさらに深く理解できるテーマを選定し開催します。また、会期中毎月、学芸員によるギャラリートークを行ないます。

体験事業は、ゴールデンウィーク・夏休み・冬休み・春休みにあわせて年4回、親子で楽しめるワークショップを開催します。

スポット展示は2回実施します。9月～11月に薄命の女流歌人「田部君子」展、2月～4月に「幕領小名浜の代官」展を開催します。

さらには、いわき市南部の文化・歴史を発信する拠点施設として、マスコミへの

細かな情報提供や、ホームページ・SNSの随時更新などの情報発信に努めます。
あわせて、隣接する体験学習施設「吹風殿」の開錠施錠業務を実施します。

エ いわき市アンモナイトセンター

引き続き、常設展示並びに体験発掘を主たる事業とし、その他の各種事業についても併せて展開します。

当施設の基幹事業である体験発掘事業については、個人や家族を対象とした一般体験発掘として毎週土・日曜日に実施するほか、5月の連休及び8月のお盆休み、親子自然探訪教室を実施しない三連休においても特別実施日として開催します。また、学校等の団体を対象とした特別体験発掘は、原則として一般体験発掘を実施しない開館日に実施します。

企画展は、小・中学校の夏休み期間には「いわきの古生代 高倉山層の化石」、冬休み期間には「いわきの中生代 足沢層の巻貝」を開催し、双葉層群を中心とした本市から産出する化石や地質学の魅力を伝え、利用者の自由研究等に対するニーズ等にも資する展示を実施します。

親子自然探訪教室は、祝日を中心に年5回実施します。幼稚園児から中学生までの親子を対象とし、古生物学以外にも自然科学分野全般という広範なテーマでの体験学習カリキュラムの提供を通し、理科への興味と知識を育みます。

公開シンポジウム（化石講演会）は、例年と同様に久之浜地区において9月に実施します。双葉層群や化石に関連した分野の専門家を講師として招聘し、いわき地域の化石（中生代から新生代）についてのご講演をいただくことで地域の小・中学生や一般市民に化石研究の魅力を伝えます。

さらに、地質学・古生物学に特化した博物館であるという特色を生かし、要請に応じて学校や各種イベントに出張し、講演やミニ体験発掘などの学習プログラムを提供する出前講座を実施します。また、地域の活動・イベントを通して地域社会とのさらなる連携強化に努めるとともに、他館との連携、収蔵標本の登録・研究についても積極的に推進する事で当館の魅力と学術的付加価値の創出へとつなげます。

オ いわき市考古資料館

企画展は3回開催します。4～6月には令和2年度に市内で行われた発掘調査等の成果を紹介する「令和2年度発掘速報展」、7～10月には前方後円墳が登場した背景を探る「いわきの古墳時代を探る－巨大前方後円墳の出現－」、11～3月には横穴墓に描かれた装飾の意味について探る「いわきの古墳時代を探る－装飾横穴の謎－」を開催します。併せて、それぞれの企画展の理解を深めていただくために、遺跡報告会、展示解説会、講演会等を開催します。また、1月にはミニ企画展として、令和4年度の干支「寅」について、考古資料などを展示する「干支－とら－」を開催します。

講座は、高校生以上を対象に古墳時代のいわきをテーマとした「いわきの考古学講座」を全4回、夏休みには小学生を対象とした「自由研究に挑戦しよう!!」、さらには新たなボランティアを養成する「ボランティア養成講座」を2回開催します。

体験学習会は、5月の「ゴールデンウィーク体験学習会」、8月の「キッズミュ

ージアム」、11月の「古代まつり」のほか、ゴールデンウィーク、夏・冬休み及び2月に「勾玉づくり体験会」を7回、計10回開催します。

今年度も、事業内容のさらなる充実を図るとともに、歴史に関する問合せや資料の貸出及び団体・個人への解説や体験指導、また、要請により館外へ出向いて実施する出前講座等、館利用の様々な要望に積極的に応え、市民の満足度を高めていきます。

カ 福島県いわき海浜自然の家

恵まれた自然環境の中でおこなうさまざまな活動をとおして、青少年の心身の健全な育成を図るとともに、県民に多様で魅力ある体験活動の場を提供することに努めます。また、利用者の安全を最優先とし、安全衛生の管理と施設環境づくりを徹底しておこないます。新型コロナウイルス感染症に対しても、利用者が安全・安心に活動できるよう感染拡大防止対策を徹底します。

主催事業では、子どもから大人まで広く県民に施設を開放する「春・秋のオープンデー」、運動の機会を提供することで健康への意識向上を図る「スポーツフェスティバル」、創作活動をとおして家族の絆を深めながら自然に親しむ「親子のつどい」・「クラフトのつどい」などを開催します。また、例年小学生を対象として実施している「ふれあいオータムキャンプ」に加え、「ふれあいサマーキャンプ」を開催します。

研修事業では、学校教育団体および社会教育団体の指導者を対象とした事前研修会を4・5月に開催、ボランティア活動希望者が体験活動を支援するために必要な知識や技能等を学ぶ「ボランティア養成講座」を4回開催します。

また、不登校児童生徒を対象に自然体験活動や交流の機会を提供する「心のケアが必要（不登校等）な子どもたちを対象にした事業」や、子どもたちの運動不足の解消や体力向上を促すことを目的として、スポーツやアスレチック活動を取り入れたプログラムを提供する「未来キッズ生き生き事業」などを開催します。

諸課題については、利用者目線で解決にあたり、県民に親しまれる施設づくりに努めます。

キ いわき市生涯学習プラザ

引き続き、生涯学習の拠点施設としての役割を踏まえた事業を推進し、多様な市民ニーズに応えられるよう努めます。

プラザが企画・運営する「主催講座」及び、サークルやITリーダーが自主的に企画・運営する「サークル企画講座」を年間50講座前後、実施します。また、ITボランティアや子育て支援ボランティアによる「ボランティア活用事業」は、参加者・利用者から高い評価を得ており、今年度も継続して実施します。市民ニーズが高く応募者が多い「パソコン実用講座」は、内容の充実を図り開催します。また、生涯学習推進計画の重点項目である子育て支援のため、親子で参加できる講座の充実を図ります。

共催事業は、(一社)茶道裏千家淡交会いわき支部との「お茶会」、いわき華道連合会との「生け花展」のほか、各種団体や社会教育施設との連携事業も積極的に

開催します。

さらに、全市的な事業の一環として、第17回生涯学習フェスティバルを開催し、市民交流の場として一層の充実を図ります。

また、市民大学や生涯学習フェスティバルなど、生涯学習支援ボランティアの会と連携した効率的な事業運営を実施します。

3 管理部門(法人会計)

(1) 基本方針

事務局は、公益財団法人及び指定管理者としての立場を踏まえ、本財団が担う使命を職員及び各施設が一体となって遂行していけるよう、運営の方向性を明確に示しながら、各施設と連絡調整をおこない、財団全体の事業推進をサポートしていきます。

さらに、財団運営の執行にあたり、理事会・評議員会の開催を適切に開催し、収支相償に留意しながら、事務局事務を執行し、円滑な財団運営を図っていきます。

また、財団運営を支える人材育成を着実に進めるために、効果的な研修計画を作成し、実施していきます。

(2) 事業計画

ア 組織運営

円滑な組織運営をおこなうため、法令等の改正に合わせた就業規則等諸規程の整備及び適切な運用を図ります。

また、収支相償の原則を遵守し、財源の効率的な執行を推進し、最適な施設管理を図ります。

さらに、施設長会議や事務担当者会議等を定期的に開催することにより、情報等の共有及び問題点の解決を図ります。

イ 人材育成

職員の資質向上を目指し、基本研修をはじめ、専門的な研修や各種講習会等への参加、個人研究に対する自主研修制度の利用促進を図ります。成果については、「研究紀要」を刊行することにより、市民に還元します。

ウ 情報発信

財団の財務諸表の公開をはじめ、各施設の事業計画等の情報については、ホームページやSNSにより迅速に情報の提供を図ります。

エ 啓発事業

職員の専門性を活かし、小・中学校や公民館、地域団体等の要請による出前講座を積極的に実施していきます。

また、「たからものずかん」シリーズは、継続して刊行します。

4 職員に関する事項

(令和3年1月現在)

(1) 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	1	—	—	—	—	—	2
企画管理係	—	1	—	2	—	—	1	4
調査係	—	—	2 (1)	3	1	1	10	17 (1)
計	1	2	2 (1)	5	1	1	11	23 (1)

(2) 施設

区分	館長 所長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
文学館	1	1	—	—	2	—	5	9
伝承郷	1	1	—	1	1	—	4	8
勿来関 文学歴史館	1	—	—	1	—	1	2	5
アンモナイト センター	1	—	—	—	1	1	3	6
考古資料館	1	—	(2)	(3)	1 (1)	—	3	5 (6)
いわき海浜 自然の家	1	1	2	3	—	1	9	17
生涯学習 プラザ	1	2	1	1	—	—	6	11
計	7	5	3 (2)	6 (3)	5 (1)	3	32	61 (6)

合計	8	7	5 (3)	11 (3)	6 (1)	4	43	84 (7)
----	---	---	----------	-----------	----------	---	----	-----------

収 支 予 算 書

収 支 予 算 書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位千円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益 (A)	1	1	0	
基本財産受取利息	1	1	0	
事業収益 (B)	607,443	666,088	△58,645	
文化財調査受託料	132,798	195,598	△62,800	事業受託12件
施設指定管理料	463,720	455,031	8,689	施設8件
いわき市立草野心平記念文学館	76,393	76,053	340	
いわき市草野心平生家	3,254	3,254	0	
いわき市暮らしの伝承郷	51,235	51,056	179	
いわき市勿来関文学歴史館	35,798	35,798	0	
いわき市アンモナイトセンター	26,408	26,147	261	
いわき市考古資料館	17,446	17,145	301	
福島県いわき海浜自然の家	156,283	149,482	6,801	
いわき市生涯学習プラザ	96,903	96,096	807	
施設事業受託料	7,896	9,095	△1,199	事業受託4件
いわきヒューマンカレッジ	3,418	3,788	△370	
未来キッズ生き生き事業	3,650	3,650	0	
吹風殿開閉業務	328	328	0	
心のケアが必要な子ども対象事業	500	700	△200	
プラザアンケート調査事業	0	629	△629	
施設利用料	3,008	6,322	△3,314	施設1件
出版物頒布料	21	42	△21	
雑収益 (E)	643	710	△67	
受取利息	5	5	0	
雑収益	638	705	△67	
経常収益計 (F)	608,087	666,799	△58,712	(A~E)
(2) 経常費用				
事業費 (G)	568,050	624,711	△56,661	
給料手当	113,317	118,164	△4,847	
賞与引当金繰入額	11,977	11,987	△10	
賃金	136,543	158,999	△22,456	
共済費	44,626	49,314	△4,688	
報償費	6,158	6,059	99	
旅費	8,145	11,848	△3,703	
消耗品費	8,139	10,266	△2,127	
被服費	312	279	33	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
燃料費	8,010	8,378	△368	
食糧費	440	446	△6	
印刷製本費	16,606	15,278	1,328	
光熱水費	32,545	33,709	△1,164	
修繕費	3,988	5,970	△1,982	
通信運搬費	7,146	6,545	601	
広告料	571	526	45	
手数料	1,282	1,402	△120	
保険料	1,249	1,245	4	
委託料	97,395	91,524	5,871	
使用料及び賃借料	23,817	39,745	△15,928	
工事請負費	272	3,538	△3,266	
原材料費	478	302	176	
負担金	324	318	6	
公租公課	31,357	34,754	△3,397	
消耗什器備品費	866	1,120	△254	
減価償却費	10,458	10,458	0	
支払利息	2,029	2,537	△508	
管理費	48,866	48,907	△41	
報酬	399	399	0	
給料手当	20,645	20,827	△182	
賞与引当金繰入額	2,292	2,358	△66	
賃金	4,116	3,944	172	
共済費	6,267	6,266	1	
報償費	260	260	0	
旅費	648	648	0	
交際費	80	80	0	
消耗品費	624	624	0	
被服費	30	30	0	
燃料費	72	72	0	
食糧費	68	68	0	
印刷製本費	1,542	932	610	
光熱水費	125	125	0	
修繕費	900	900	0	
通信運搬費	304	304	0	
広告料	50	50	0	
手数料	446	440	6	
保険料	80	60	20	
委託料	1,961	1,961	0	
使用料及び賃借料	1,953	1,909	44	
負担金	942	876	66	
補償費	38	38	0	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
公租公課	4,474	4,648	△174	
消耗什器備品費	550	1,088	△538	
経常費用計 (I)	616,916	673,618	△56,702	(G+H)
当期経常増減額 (J)	△8,829	△6,819	△2,010	(F-I)
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計 (K)	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計 (L)	0	0	0	
当期経常外増減額 (M)	0	0	0	(K-L)
当期一般正味財産増減額 (N)	△8,829	△6,819	△2,010	(J+M)
一般正味財産期首残高 (O)	123,828	130,647	△6,819	
一般正味財産期末残高 (P)	114,999	123,828	△8,829	(N+O)
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額 (Q)	0	0	0	
指定正味財産期首残高 (R)	10,000	10,000	0	
指定正味財産期末残高 (S)	10,000	10,000	0	(Q+R)
III 正味財産期末残高	124,999	133,828	△8,829	(P+S)

資金調達及び設備投資の見込について

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

1 資金調達の見込について

借入の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入先	金額		用途	

2 設備投資の見込について

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額		資金調達方法 又は取得資金の用途	